

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2092700059		
法人名	特定非営利活動法人 ラポール		
事業所名	特定非営利活動法人 ラポール グループホーム朝日新明館		
所在地	東筑摩郡 朝日村 古見1938		
自己評価作成日	令和3年10月23日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_022_kni=true&JigyosyoCd=2092700059-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市東中央通5丁目59番地1
訪問調査日	令和3年11月24日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<p>朝日新明館の理念の中心には、笑顔があります。その笑顔とは、ご利用者様の笑顔であり、職員の笑顔でもあります。ご利用者様の笑顔を引き出しにいけるようなケアを行うことで、その人らしい生活を実現して行くことができます。</p> <p>また、朝日新明館は自然豊かで、静かな池のほりにある施設です。四季折々の季節を楽しみつつ、ご利用者様にあう生活ができるようなケアを目指しています。</p>
--

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>これまでグループホーム朝日新明館は、理念の一つである「地域の皆様との交流」に力を注いできた。地域に出かけて交流を広げてきた「火祭り」「敬老会」、そして「認知症カフェ」然りである。しかしながらコロナ禍の現在、行事が中止や規模縮小となり、外出することさえ自粛しなければならぬ事態になってきた。こうした状況の中で、グループホームに求められていることは、利用者との真の関係であると思われる。このグループホームでは、「接遇」と表現しているが、職員が利用者に対してどのような態度で、どのように話しかけ、どのように行動したらお互いに笑顔になって暮らしていけるのかを真摯に追求している。</p>
--

Vサービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

(別紙)

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と人との繋がりが笑顔の輪になる」という理念を基に、職員が笑顔で接し、ご利用者様の笑顔を引き出していくことができるようなケアの実践に取り組んでいます。	職員には出勤するたびに事務室に掲げてある鏡を見て、家庭から職場へと自分の心を切り替えてもらうようにしている。自分の身だしなみを整えると同時に、利用者へ笑顔で接するように心がけていくことは、利用者の笑顔を引き出すことであるという、中心である理念をそのまま表し、職員は実現していこうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様が地域とのつながりを持ち続けられるように、地域の行事に積極的に参加して交流を図っています。この地区の区長の協力によりさらに交流を広げていきましたが、コロナ禍のため現在行うことができていません。	これまで地域とのつながりを持ち続けてきた行事などが、コロナ禍のため感染警戒レベルの高まりに応じて、地域との交流が中止や延期になってしまっている。ボランティアの活動が延期になっているその中でも、婦人会から野菜などを届けていただき、感謝していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症初期集中支援チームへの参加や「認知症カフェ」への協力等を通して、地域貢献をしていましたが、コロナ禍のためできなくなりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の区長、民生委員、村役場の職員、ご家族代表の他、季節や行事により関係する方々をメンバーに加え、年6回行っていましたが、コロナ禍のため会議を行った数は少なく、書面での連絡になっています。	昨年4月、地区の区長が代わり災害についてのアドバイスを受けて、避難経路を見直すことができた。8月から、感染警戒レベル5になり、運営推進委員が集まって会議を行うことは中止となり、書面での連絡となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村の地域会議などもコロナ禍のため中止が多くなり、電話や書面での連絡を取り合うことが多くなりましたが、地道に協力関係を築いています。	コロナ禍のため、会議などは中止になっているが、村から感染防護具(マスクやフェイスシールド)や、食堂や大広間に空気清浄機の支給を受け、いろいろ協力してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を法人全体で行っていましたが、コロナ禍のため、現在は職員会議の中で身体拘束委員会の議題として取り組み、実践しています。	家族の同意を得て、転倒防止のために車椅子に安全ベルトをしたり、ベッドの柵を設けたりしている。職員会議の身体拘束委員会で解除に向けて話し合っている。また、虐待防止についても研修を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の疲労やストレスがご利用者様に悪い影響を及ぼすことがあるので、職員の業務負担の軽減を考え、虐待防止をしないケアの実践を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活の自立支援に力を注いでいますが、職員とともにもっと学ぶ必要があると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解いただけるご利用者様やご家族様に、事前に納得いただけるように、十分な説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様にはふだんの生活の中で聴き取りさせていただき、ご家族様とはお会いできる時に時間をいただき、話をさせていただいています。その内容によっては職員と話し合い、共有するようにしています。	昨年の夏ごろまでは、面会は玄関の外で椅子を出して行っていたが、10月頃から玄関で、短時間の面会ができるようになってきた。このようなコロナ禍でも柔軟に対応して、家族の意見や要望を聴き取ろうとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議での意見や提案を法人内の管理者会議で報告し、話し合っ、反映できるようにしています。	コロナ禍のため、朝の引継ぎ時の話し合いを重視し、すぐ対応ができるようにしている。職員会後のカンファレンスでは、拒食傾向のある利用者がなかなか食堂に来て食事をしないことが話題になり、おにぎりを作って大広間で食べてもらうなど、対応について職員全員で話し合うことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働くことのできる職場環境や条件の整備については、職員の意見や管理者の意見を聞き、整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまで法人内部や外部での研修を通して、常にご利用者様に対する接遇を学んできましたが、コロナ禍のため行うことができません。グループホーム内で、そのつど言葉かけをして、職員を育てていくように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、法人内部や外部との交流は通信を通して情報交換を行いながら、質の高いサービスが行えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人とご家族様と話し合いを行い、グループホームでどのような生活をして行きたいかを確認し、ご本人に対するケアの参考にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様から、現在の困りごとや不安、要望等を聞きながら、よく話し合うことで信頼できる関係づくりを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様が先ず必要とされている支援を見極め、実践につなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様との会話を重視し、ご本人の「声」を大切にすることを通して、職員はご利用者様との良好な関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との面会を大切に、難しくなっていくご利用者様とご家族様との絆を保ちながら、両方の目線に立って、ご本人への支援を考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設訪問や面会はいつでも来ていただくことができるようにしていますが、コロナ禍のため、現在はお断りしています。電話等はご本人につなぐようにしています。	これまで利用者の友人などが訪問してきていたが、コロナ禍のため、現在は断っている状況である。しかし、電話や手紙などで交流が続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者様同士の輪に入り、会話やレクリエーションなどを行うようにしています。耳が遠い方や認知症の症状により意思の伝達等困難な方がいるため、お互いの思いや感じていることなどを間に入り、伝え合うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、移動先の施設へ連絡したり、ご家族様とも連絡し合ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のケアの中で得られたご利用者様の言葉を書きとめ、意向の把握を行い、朝の引継ぎや職員会議でのカンファレンスにおいて職員間で話し合っ、共有するように努めています。	職員は、利用者の様子や言動を見ながらメモを録り、それを利用者個人の「業務日誌」の午前・午後の記録や、利用者個人の「夜勤日誌」にまとめて、職員間で共有できるようにしている。緊急を要する場合は朝の引継ぎで話し合ったり、重要事項についてはカンファレンスで話し合ったりして、利用者本位の対応をとるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネージャーより情報の提供をいただいています。場合によってはご本人の情報をご家族様より聞き取り、より細かな情報の収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日々の様子や変化を職員は「表情や言動」を観察して捉え、朝、夕の引継ぎの場において共有し、その後のサービスに結びつけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の現在の状況を把握し、ご利用者様の担当職員と全職員でカンファレンスを行い、現状に即した計画を作成しています。	利用者一人ひとりの「業務日誌」や「夜勤日誌」の記録などを基に、「介護計画モニタリング表」でそれぞれのニーズに応じたサービス項目ごとに、実施状況・本人の満足度・今後の方向性をモニタリングして、利用者本位の介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の様子などは「業務日誌」や「夜勤日誌」等に記録したり、口頭でも情報を共有したりして、実践や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の変化時に生まれるニーズに対しては、そのたびに適切な支援やサービスで対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでご家族様の行事への参加や地域の方の訪問、「認知症カフェ」の参加など、ご利用者様の生きがいになるような支援をしてきましたが、コロナ禍のため、現在は実施していません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人、ご家族様の以前からのかかりつけ医となっています。かかりつけ医によっては、月2回あるいは月1回の往診となっています。また緊急の場合はいつでも受診できるように支援しています。	利用者は毎朝起きた時や入浴の際のバイタルチェックを行い、かかりつけ医と連携して、月2回あるいは月1回の往診を受けるようになっている。また、歯科医や整形外科医・精神科医など利用者に応じた受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師と連携をとり、相談したり、アドバイスをを受けたりして、適切な受診の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと連携を図り、現状把握をしています。また、退院後の受け入れ体制も整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に、終末期の在り方や重度化した場合の在り方でグループホームでできること等を説明し、医療関係者とも連携し、職員とともに方針を共有しています。	入居に際して、重度化した場合や終末期の在り方について詳しく説明している。10月現在、1名が外泊中で8名の利用者がいるが、平均年齢89歳、平均介護度1.75で、車椅子1名、歩行器5名の利用者が利用している状況である。過去に看取りを行ったことがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変時、事故発生時に対しての初期対応、応急手当等の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	これまで昼間における避難訓練はもとより、夜間帯想定災害発生時の避難誘導訓練も職員一人ずつ(夜勤を行う者)が行ってきました。また、夜勤一人体制時でも対応できるように、消防署の指導の下訓練を行ってきました。災害時に備えて、非常食、飲料水、備品の準備をしています。	昨年春と秋に避難訓練を計画していたがコロナ禍のため実施していない。8月の夕飯時に停電があったが、居室のベッド脇に懐中電灯を置いてあったので、誘導する時に役に立つことができた。	ハザードマップによると、このグループホーム周辺は土砂災害の恐れがあるとのことなので、避難経路を含めて対応策を考えていきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い人生を送ってこられたご利用者様に対して、個々の人生や生活歴などを配慮した声かけや、言葉遣いをするように努めています。職員会議や法人内の研修の場において、接遇について議題に挙げ、話し合いを行っています。	利用者が失禁した時や排便の臭いがあった時などは、他の利用者がある場合が多いので特に配慮して、優しく言葉かけして安心させたり、すぐ入浴できるように対応したりしている。また、利用者の特別な習慣や癖などをすぐ注意しないで温かく見守るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々ご利用者様に声かけを行っており、自己表現が苦手なご利用者様には表情や行動等を観察したりしながら、自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の行動は、ご本人のペースに合わせて過ごしていただくように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方には、ご自身の思い通りの服装に着替えていただきますが、介護度によっては職員が声かけをして選んでいただき、介助にて着替えを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただくように食材の色合い、品数等を工夫しています。また、体調に合わせた献立、季節に合わせた献立などを工夫して楽しんでいただいています。ご利用者様には下準備、後片付け等に取り組んでいただいています。	管理者は食料の買い出しをして出勤してくるので、費用も安くおいしい食材を得ることができている。特に、食事の色合いに配慮して、1日の献立を考え、おかずを加えたりして、具だくさんの汁となっている。昼の食事を大切にしている、訪問当時の献立は、お刺身にカキのフライ、具だくさんの味噌汁に茶わん蒸しと、豊かな食事であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせ、栄養バランスを考えた食事や水分を確保できるような食事を支援しています。また、水分に関してはスポーツドリンクなども取り入れて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回三食後、口腔ケアを実施しています。ほとんどのご利用者様が総義歯なので、ご自分で洗浄していただき、その後のチェックや洗い直しを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、それぞれのご利用者様の24時間排泄チェックの記録を行い、パターンや時間を確認し、時間によるトイレ誘導をして、自立支援を行っています。	一人ひとりの利用者の排泄パターンにあった布パンツや紙パンツ・おむつの利用を支援している。失禁して恥ずかしいとパンツを隠したり、弄便の様子が見られたりする時は、適時対応できるようにしている。また、居室にセンサーをつけて放尿に配慮するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、体操をしたり、水分補給をしたり、食物繊維の摂取などをして、便秘の予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望も採り入れ、ご利用者様には時間にとらわれることなく、ゆっくりと入浴していただいています。	1週間に2回は入浴できるようにしている。入浴の際には、職員はその様子を見守ったり、後ろから洗体したりして利用者と楽しく会話をし、ゆっくり入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休まれる方や活動されている方と、それぞれの生活習慣に応じた過ごし方をいただき、夜間もゆっくりと休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様一人ひとり飲む薬が違うので、薬の用法や容量を理解したうえで支援しています。症状の変化時には、常にかかりつけ医と連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事の片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、役割として行うように支援しています。また、楽しみ事としては、大広間での個別の楽しみを支援しています。寒い冬の気分転換にもなっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設前の広場で日光浴を楽しんでいます。車でのドライブなども行っていますが、コロナ禍においてなかなか外出する機会がありませんでした。	昨年の春から夏にかけては、桜やバラ園、ひまわりの道などをドライブして見てきたが、コロナ禍のため、外出することが困難になっている。その中でも、天気の良い日は玄関前の広場で日光浴をしたり、天気の良くない日には広間に集まってパズルや計算の勉強をしたりして気晴らしをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は持ち込まないことが原則ですが、ご本人やご家族様の了解後、お金を金庫にて保管し、ご本人の必要時に応じて使用できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や友人からの電話や手紙等は取次を行い、返事の支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所には、ご利用者様が作られた作品等を飾り付けております。広い建物の中を、ご利用者様はお互い不快な思いや混乱を招くことなく過ごしております。また、玄関先に出たり大広間の窓から外を眺めたりするだけで自然の景色を楽しむことができます。	コロナ感染の予防対策として、食堂や大広間に空気清浄機が設置された。利用者はマスクをしてもすぐ外してしまうので、気にすることがなく活動できる。この共用空間を利用して体操をしたり、パズルをしたり、洗濯物をたたんだり、昼寝をしたりして自由に休息できる空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	グループホームには「畳」の大広間があるので、様々な場面で有効に活用し、ご利用者様に思い思いゆっくり過ごしていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は広く、収納も個々にできるようにしてあります。ご本人、ご家族様の意向で馴染みある物を持ち込まれています。そうすることによって自宅での生活に近づける工夫ができるようになっています。	居室には、温度計や湿度計が置かれ、換気扇も設置されているので、コロナ感染の予防策の一環としての役割を果たしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム内は広く、居室からの移動も歩いてくるご利用者様が多いのですが、転倒の危険性も考えられます。事務室が廊下を見渡せる位置にあるので、そこから移動の様子を見ることが出来ます。また、場合により誘導介助の指示も職員に伝えられ、安全に生活ができるように配慮しています。		